

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 今村 佳樹 日本大学歯学部 教授

研究要旨

歯科における慢性口腔顔面痛患者の重症度を評価する目的で、PDAS 質問紙法を用いてオンライン調査をおこなった。調査においては、口腔顔面領域のみに痛みを持っている人、口腔顔面領域と他の領域に痛みを持っている人、口腔顔面領域以外に痛みを持っている人別に、アンケート調査で、PDAS を用いて痛みによる生活の支障度を調査した。その結果、慢性口腔顔面痛患者における人においては、その他の領域に慢性痛を持つ人に比べて、痛みの強度（NRS）は同等でも、PDAS のスコアは有意に低く、PDAS が口腔顔面痛領域の慢性痛患者における痛みによる口腔機能の支障度を正しく表していない可能性が示された。

A．研究目的

予備調査で得られている慢性口腔顔面痛（罹病期間3回月以上）の有病率は、約6%である。本研究は、慢性口腔顔面痛の特性を知り、痛みセンターにおけるオンライン調査を通して口腔顔面痛患者の診療上の診療データベースの活用法を検討する。

B．研究方法

オンライン調査を用いて、口腔顔面領域に中等度以上の痛みの強さ（NRS 5以上）を6か月以上持続して経験している人200人と口腔顔面領域以外にNRS 5以上の痛みを6か月以上有している人200人、痛みのない人200人を抽出した。調査対象者の年齢、性別、居住地、生活支障度を調べた。これらの対象者を基に、同時に Pain Disability Assessment Scale (PDAS), Pain Catastrophizing Scale (PCS)を問うことによって、口腔顔面痛患者の有する痛みの特性をデータベース化するための予備調査を行った。なお、アンケート情報は全て匿名化された状態で取り扱われ、本調査に関わる研究者が個人情報を取り扱うことはない（楽天インサイト社との契約による）。

C．研究結果

NRS5以上の痛みが6か月以上持続している人は、全体の18%に見られた。いずれかの部位に痛みを訴えた人のうち、口腔顔面領域だけに痛みを訴えた人は68名で口腔顔面領域と他の領域に痛みを訴えた人は140名、口腔顔

面領域以外だけに痛みを訴えた人は192名だった。うち、口腔顔面領域に痛みを訴えた人におけるPDASの値は、平均8.0であった。

口腔顔面領域と他の領域に疼痛を自覚している人のPDASの平均値は15.4、口腔顔面領域以外の部位に痛みを有している人のPDASの平均値は11.7であった。ただし、全く痛みを自覚していない人におけるPDASの値も4.9であった。いずれかの部位に痛みを訴えた人のうち、PDASで40点/60点以上を呈した人は12名（3%）であったが、口腔顔面領域だけに痛みを訴えた人は皆無だった。

D．考察

PDASは慢性疼痛の患者の日常生活における支障度を評価することで、慢性痛の重症度を評価するのに好んで用いられる指標である。しかしながら、PDASには、腰痛の評価に用いる項目が複数設けられており、口腔顔面領域の慢性痛の患者の重症度分類に用いる場合、口腔顔面以外の領域と同等の基準で評価に用いることは、適当でない可能性がある。今回の調査では、一般に腰痛等の重症度の評価基準として設定されるPDASスコア40点を満足した口腔顔面痛症例は皆無であった。口腔顔面痛患者の重症度分類に用いるためには、口腔症状を反映した日常生活障害の要因を取り入れる等、PDASの項目の検討が必要であると考えられた。

E．結論

PDAS を用いて慢性疼痛患者の重症度分類の検討を行った結果、慢性口腔顔面痛だけを訴える人においては、PDAS で 40 点以上を呈する人は見られなかった。このことは、慢性の口腔顔面を有している人の重症度評価は、現状の PDAS では不十分で、別の適切な指標が必要である。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G . 研究発表

1. 論文発表

- 1) Imamura Y, Shinozaki T, Okada-Ogawa A, Noma N, Shinoda M, Iwata K, Wada A, Abe O, Wang K, Svensson P. (2019) An updated review on pathophysiology and management of burning mouth syndrome with endocrinological, psychological and neuropathic perspectives. *J Oral Rehabil.*46:574–587. DOI: 10.1111/joor.12795.
- 2) 今村佳樹、岡田明子、野間 昇、篠崎貴弘、篠田雅路、岩田幸一 (2019) バーニングマウス症候群 . *ペインクリニック* 40 (3): 335-347.
- 3) Imamura Y, Okada-Ogawa A, Noma N, Shinozaki T, Watanabe K, Kohashi R, Shinoda M, Wada A, Abe O, Iwata K (2020) A Perspective from Experimental Studies of Burning Mouth Syndrome. *J Oral Sci*, 62(2): 165-169.
- 4) Watanabe K, Noma N, Sekine N, Takanezawa D, Hirota C, Eliav E, Imamura Y. (2019) Association of somatosensory dysfunction with symptom duration in burning mouth syndrome. *Clin Oral Investig.* 23(9):3471-3477. doi: 10.1007/s00784-018-2765-7
- 5) Tanaka T, Shiiba S, Yoshino N, Harano N, Sago T, Kito S, Matsumoto-Takeda S, Wakasugi-Sato N, Oda M, Joujima T, Miyamura Y, Imamura Y, Morimoto Y. (2019) Predicting the therapeutic effect of carbamazepine in trigeminal neuralgia by analysis of neurovascular compression utilizing magnetic resonance cisternography.

Int. J. Oral Maxillofac. Surg. 48: 480–487.
DOI: doi: 10.1016/j.ijom.2018.09.012

- 6) Kohashi R, Shinozaki T, Sekine N, Watanabe K, Takanezawa D, Nishihara C, Ozasa K, Ikeda M, Noma N, Okada-Ogawa A, Imamura Y. (2020) Time-dependent responses in brain activity to ongoing hot stimulation in burning mouth syndrome. *J Oral Sci*, 62(2): 170-174. <https://doi.org/10.2334/josnusd.18-0431>

2. 学会発表

- 1) Ozasa K, Shinozaki T, Takanezawa T, Noma N, Okada A, Imamura Y. Altered pain modulation to noxious heat thermal stimuli in Burning Mouth Syndrome, 19th Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, Oct 19, 2019, Manila
- 2) Shinozaki T, Ozasa K, Takanezawa T, Noma N, Okada A, Imamura Y. Altered resting state functional brain connectivity in Burning Mouth Syndrome, 19th Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, Oct 19, 2019, Manila

H . 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし